

# 女性議員に対するオンラインハラスメント

—首都圏の女性地方議員の事例を手がかりに—

申 琪榮 / 濱田 真里

お茶の水女子大学教授 / お茶の水女子大学共同研究員

## はじめに

女性の政治参画を妨げる隠れた障壁の一つが、政治に関わる女性に対するハラスメントや暴力である。選挙キャンペーン、議会、政党、メディアといった様々な場で女性候補者や女性議員はハラスメントや暴力にさらされてきたが、それが女性に対する暴力の一種であるという認識はなかった。女性議員に対するハラスメントが注目を集める時があっても、個別事案としてスキャンダル化され、その背景にあるジェンダーバイアスや女性に対する差別構造が焦点になることはほとんどない。ハラスメントや暴力は、女性が政治家になるために払わざるを得ないコストのようなものとして捉えられてきた。

### しん きょん

政治学博士、お茶の水女子大学教授。専門はジェンダーと政治・フェミニズム理論・比較女性運動。近年日本、韓国、台湾の研究者らと国際研究ネットワークを構築し、議会における女性の政治代表性の比較研究を行っている。『ジェンダー研究』編集長。女性の政治リーダー養成のための一般社団法人『パリティ・アカデミー』共同代表。

『The Oxford Handbook of Feminist Theory』、『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』(共著)、「セクシュアルハラスメントの理論的展開—4つの害アプローチ」(社会政策学会誌『社会政策』、2021年)など。

### はまだ まり

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ジェンダー社会科学専攻博士前期課程修了。修士(社会科学)。専門分野は、女性議員に対するオンラインハラスメント。お茶の水女子大学ジェンダー研究所東アジアにおける政治とジェンダー研究チームに所属。

しかし女性の政治参加が増えるにつれ<sup>1</sup>、政治の世界で起きる女性に対する暴力も関心を集めるようになった。例えばボリビアでは、女性議員の殺人事件を受けて2012年に政治に関わる女性に対するハラスメントや暴力(political violence and harassment against women)を犯罪化する世界初の法律を制定した(Restrepo Sanín 2018: 676)。ボリビアの事例に倣ってラテンアメリカ諸国では同様の動きが活発化した。2016年からは、アメリカの民主党国際研究所(NDI: National Democratic Institute)が#NotTheCost(暴力は政治参加のコストではない)というグローバルキャンペーンを行ない、女性政治家に対する暴力の根絶を呼びかけた<sup>2</sup>。列国議会同盟(IPU: Inter-Parliamentary Union)や国連もグローバルキャンペーンを展開している。

政治分野における女性に対する暴力は3つの観点から定義付けされている。第1に、女性であるがゆえに暴力のターゲットになること、第2に、暴力の形態や中身がジェンダー化されていること、第3に、女性が政治に参加すること、あるいは政治活動をするのを妨げる効果をもたらすこと、である(IPU 2016)。具体的な暴力の形態は様々なものがあるが、これまでの女性に対する暴力の研究に基づき、身体的、心理的(精神的)、性的、経済的暴力に分類するのが一般的である。IPUの調査によると、最も多い形態は侮辱、揶揄、性的なコメント、本人及び家族への脅迫、望まないアプローチなど「心理的な

表1 女性議員に対するTwitter上のハラスメントの概要

	フォロワー数 <sup>6</sup> (2020年7月時点)	被害を受けた投稿数	加害リプライ数	加害アカウント数
X議員	約4000	48件	78件	49件
Y議員	約2000	62件	160件	85件
Z議員	約6000	89件	185件	67件

暴力」であった (IPU 2016, 2018)。心理的な暴力は幅広い形態を含むために、脅しや強要とは別に、特に侮辱的な言葉や性的なイメージなどを使うハラスメント・暴力を「記号的暴力」に区別して概念化する場合もある (Krook and Restrope Sanin 2016, Krook 2020) <sup>3</sup>。

これらの調査では、野党所属、年齢が若い、マイノリティの女性である、国会ではなく地方での政治活動の中、といった条件下で、最も頻繁に被害が起きていることも明らかになった。また、身体的暴力以外の被害については、相談したり、所属政党に報告したり、通報したケースは2割にも至っていない (IPU 2018)。それは女性議員自身も自分が経験したことを暴力やハラスメントとして捉えていないことと、被害を報告しても所属政党や警察が適切な措置をしてくれると思わないからである。

そのため、政治における女性へのハラスメント・暴力は深刻でありながら未だに全体像が十分に把握されていない。女性議員が増えることによって暴力が増えるのか、その逆なのか、女性に対する暴力はジェンダー平等へのバックラッシュの一形態なのかなど、検証されていない研究課題は多い。

そこで本稿は、近年増えているSNS (ソーシャルメディア: Twitter, Facebook, Instagram など) に着目し、とりわけ日本における女性議員に対するオンライン上のハラスメントの実態を把握することを目的とする。オンライン上のハラスメントはSNS固有の特徴があるため、女性議員に対する暴力・ハラスメントの全体像の把握には限界がある。しかし、他の資源が少ない若手女性議員にとってSNSは政治的コミュニケーションの貴重なツールであるため、

オンラインハラスメントの実態を把握することは女性議員に対する暴力・ハラスメントの全体像を把握するために欠かせない。

以下では、先行研究で最もハラスメント・暴力の被害が多いとされている若手で野党所属の地方女性議員7人を対象にオンライン上のハラスメントについて行った調査をもとにその特徴を論じる<sup>4</sup>。

## SNSがオンラインハラスメントの温床となる要因

ヨーロッパの調査によると、女性議員の58.2%がSNS上でオンライン・セクシュアルハラスメントを受けたことがあるという。その66.7%が匿名の加害者によるものであった (IPU 2018)。SNS、電子メールまたは電話を通じた、殺人やレイプの予告など悪質な脅威も多く、これら通信媒体を通じたハラスメントの75.5%が匿名の男性市民から寄せられたという (IPU 2018:6-7)。

とくに40歳未満の若い世代の女性は76.2%がハラスメントを受け、全世代の女性の経験と比べて18ポイントも高い。ハラスメントの内容は叱責、貶め、揶揄、セクシュアリティに関するコメントはもちろん、母親や妻としてのジェンダー役割に関連するものや、身体及び外見についての発言も多かった (NDI 2019)。

オンラインハラスメントが起きやすい背景には、SNS特有の構造的な要因と匿名性がある。SNSでは、注目を集めるためのメッセージの書き方がひとつの手法として確立している、写真などイメージや動画を編集・流通させやすい、拡散スピードが早く、しかも拡散をコントロールしにくい、といった構

表2 加害アカウントの2つのタイプとその特徴

	「炎上」タイプ	「ストーカー」タイプ
リプライの動機	議員の発言や政治活動を否定、揶揄するもの	議員の支持や応援を表明して議員の関心を引くもの
リプライの形態	特定のツイートに対して集まって集中的にリプライ	投稿する度にリプライ
1アカウント毎のリプライ回数	1回のものが多数	複数回
リプライの中身	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 馬鹿にする</li> <li>◆ からかう</li> <li>◆ 皮肉を言う</li> <li>◆ 政治家としての資質を貶める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 相手の未熟さを強く強調する</li> <li>◆ 説教やアドバイスをする</li> <li>◆ 自分語り、激しい応援や称賛コメントをする</li> </ul>

造的な要因が存在する。

そして多くのSNSが匿名性を担保している点もハラスメントが起きやすい環境を作る。特にTwitterの匿名利用率は、2014年の総務省の調査によるとアメリカの35.7%、韓国の31.5%、イギリスの31%などに比べ、日本では75.1%と非常に高い。複数のアカウントも簡単に作れる。加えてダイレクトメッセージ（DM）など個人のアカウントにアクセスできる機能も備えているため、特定の相手にメッセージを送り込むことが可能である。その反面、ハラスメントを防ぐ機能や法的制裁がほぼないので、公的な存在である女性議員へのハラスメントを起こしやすい無防備な環境となっている。

## Twitter分析から分かる オンラインハラスメントの2つのタイプ

ここでは2019年10月～2020年7月までの間に投稿された関東地域の若手地方女性議員3人に対するTwitterリプライ<sup>5</sup>を分析した結果を見ていこう。期間中に集めた数千にのぼるTwitter投稿の中から、先行研究のハラスメント形態の分類軸に沿ってハラスメントのリプライを選び分けた。その結果、423件の加害リプライが抛出された。そしてこれらのリプライをした加害アカウントは201あった。表1で示した通りに、わずか10ヶ月の間に女性議

員3人にそれぞれ49、85、67のアカウントがハラスメントのコメントをリプライしている。

これらの加害アカウントの特徴としてはまず、すべてのアカウントが匿名であることだ。Twitterでは自分のアイデンティティを明らかにしている有名人以外は、使っている名前が本名なのか確認する方法がない。そのため、基本的にすべての加害アカウントは匿名であると想定される。1人が複数のアカウントでハラスメントリプライをしている可能性があるとしても、匿名で加害ツイートをするアカウントが非常に多いと言わざるとえない。

加害リプライの内容分析については7、紙面上ここで詳細を紹介することはできないが、最も多かった内容は、相手の未熟さを強く強調して、説教やアドバイスをするもの(195件)であった。説教やアドバイスとともに「政治をわかっていない」「そんな考えをするなんてまだまだ若い」といった言葉が並ぶものが特徴である。次に多いのは、自分語りや女性議員に対する激しい応援や称賛コメントをするもので127件あり、女性議員を馬鹿にしたり、からかったり、皮肉を言ったりするものも116件あった。

これらのツイートの内容分析から、加害アカウントには大きく分けて「炎上タイプ」と「ストーカータイプ」の2つのタイプが存在することも明らかになった。表2にその特徴を要約する。

「炎上」タイプは特定の投稿に対して激しく批判したり、ネガティブなリプライをするアカウントで、一気に集まって、女性議員を馬鹿にしたり、からかったり、皮肉を言ったりするものである。1アカウントにつき1回のリプライが多いパターンである。例えば、X議員のケースでは、1年半以上も前の「炎上」した彼女の投稿について、X議員が受けた被害リプライのうち4割に相当するリプライがついていた。一度「炎上」すると検索エンジンの上位に配置され、繰り返し被害を受けるという点はインターネットならではの構図と言える。

それに比べて「ストーカー」タイプは通常時における粘着質でストーカー的にリプライするパターンである。ストーカータイプのリプライの場合は、議員の支持や応援を表明しているアカウントによる加害が圧倒的多数であるのが特徴である。議員が投稿するたびにリプライをするため、その多くが分析期間中に複数回のリプライを行っていた。最も多かった内容は説教やアドバイスをするもので、次に、自分語りや激しい応援や称賛コメントをするものが続いた。一般的に「応援や称賛」はポジティブな意味合いで捉えられがちだが、今回の分析で確認された「応援や称賛」は、加害者が「議員が自分の思い通りに動いている」と捉えている間のみ行われ、議員が加害者にとっての逸脱行為を行うと加害者は手のひらを返すように攻撃し始める。表現方法は真逆だが、どちらの目的も議員を支配しコントロールするという意味では似ている<sup>8</sup>。上で述べた海外の回答者の32.7%が、性的でない性質のしつこく攻撃的な行動にさらされたと述べていることにも通じるハラスメントであろう。

### 「身近な存在」としての女性議員の脆弱性

Twitter分析に加えて女性議員7人にインタビューを行い、ハラスメントの経験について語ってもらった。そこから1期目の議員が最も被害を受けていることが明らかになった。1期目の議員は有権者との距離の取り方が模索段階であること、政治家としての地盤がなく立場が弱いことが背景にある。そして1期目以降では議員本人が行ったハラス

メント対応が、加害の抑止力となるが、まだその経験もないからである。1期目という特徴以外に、未婚の女性議員は特に性的対象や恋愛対象として扱われやすく、「付き合え」「彼氏はいるのか」というメッセージが大量に送られてくる。加害者たちは女性議員に一方的に恋愛感情を抱き、票を理由に関係を迫ることも多い。地方議員は国会議員より「身近な存在」として認識されやすく、資源が少ないが故に自らが矢面に立たざるを得ないからこそ、このような対象として見られがちである。

身近な存在としてコントロールしようとする意図は被害の発生場所にも現れる。SNSで公にやり取りされている被害よりも、ダイレクトメッセージ等の被害の方が深刻だからだ。被害内容は様々だが、性的な内容の文章や性的な画像、説教、発言の揚げ足取り、年齢や容姿、身体についての言及、彼氏の有無を聞く、自らのプロフィールを送る等のメッセージが同一人物から毎日送られているというケースを7人中5人に確認できた。また、7人中2人には登録していないメールマガジンが毎日大量に届いていた。女性議員が既婚で子どもがいる場合には母親としての役割について説教されたり、非難されたりすることも頻繁にある。

こういった加害行為は、他党の支持者よりも所属党や議員の「支援者」や「選挙区の有権者」によるものが多い。日本の女性国会議員へのオンラインハラスメントの先行研究ではネット右翼が主な加害者であるとの結果もあるが（Fuchs and SchÄfer 2019）、本研究では7人全員が支持者を名乗る人から被害を受けており、女性の加害者もいた。特に1期目の議員3人は加害者の半分以上、もしくはほとんどが支援者だった。この場合、票を持っていることを振りかざして、「気に入られる行動をとらないと支援止めるぞ」などと迫ってくるという。Twitterなどで知った街頭演説の予定を頼りに議員を追いかけ回し、説教したり、握手と称して手を触られ続けたりすることもあるという。

しかし、こういった被害を受けても議員たちは告発することを強く懸念する。怒ったり文句を言ったりすることは議員としてのマイナス評価に繋がると

考えているためである。被害告発による二次被害を懸念する声もあった。また、「公人だから(我慢しろ)」と言われることによる声の上げづらさも指摘する。多くの日本の地方議員が無所属であること、地方議員に対する行政的な支援が少ないことは、彼女らが対策を求めることもできない弱い立場に置かれていることを意味する。

## オンラインハラスメントの負の影響

オンラインハラスメントが女性議員に与える負の影響は大きく、先行研究と同様に7人全員が「精神的影響が最も大きい」と答えた。1人は「死ぬ」というメッセージを送られてから外出に不安を感じるようになり、普段は帽子を目深に被り、誰にもわからないような格好で出歩くと語った議員が2人もいる。知名度の高さが重要な立場だが、自分の存在を消すような行動をとるほど追い詰められていたのである。また、SNSの利用理由を広報目的だと回答したにも関わらず、街頭演説等の情報はストーリー行為を恐れて7人中6人が発信しなくなったという。

議員という立場は、政治家としてたくましさ、冷静さ、強さも示す必要があり、望ましくない事案に注目を浴びること自体、政治家としてマイナスとみなされる。若手女性であるだけですでに議員としての資質が疑われる上、被害者を責める雰囲気強い社会では、若手女性議員が被害に遭っても被害を認めることも、訴えることも難しくなる。ハラスメントや暴力の経験は女性議員が政治について意見を述べることに消極的になる原因になるほか、政党内でリーダーのポジションに付くことを躊躇させる負の効果をもたらすと言われている(NDI 2018)。中では政治家としてのキャリアを辞める議員もいる。女性に対する暴力・ハラスメントは女性を萎縮させ、政治のキャリアを継続することへの壁となっている。■

### 《注》

- 1 全国の女性地方議員の総数は4608人で全体の14.0%。女性が1人もいない市区議会は28議会、町村議会では274議会もある。とりわけ40歳未満の女性議員は議員全体の1%と未だに極めて少

数派である。

- 2 <https://www.ndi.org/not-the-cost>
- 3 本稿では紙面が限られており議論を控えるが、記号的暴力はメディアやオンライン上のハラスメントを議論する上で有用なアプローチと考えられる。
- 4 本稿で使うデータ分析は、濱田真里(2021)の研究に基づいている。
- 5 リプライとは、Twitterの投稿に対するコメントのこと。
- 6 フォロワーとは、投稿を受け取るアカウントのこと。この場合、議員のアカウントをフォローし、投稿を受け取ることのできるアカウント数のことを指す。
- 7 1件のリプライにつき、複数の分類軸が該当する場合もあるため、該当内容の分類軸があればすべて当てはめた。
- 8 この形態のハラスメントが非常に多かったのは、キーワードベースに抽出したデータを計量的に分析するだけでは、ジェンダーに基づくオンラインハラスメントを十分に捉えられない可能性を示す。

### 《参考文献》

- 濱田真里、2021、『女性議員に対するオンライン・ハラスメントの分析—東京都及び埼玉県の野党女性議員を対象として事例研究』、お茶の水女子大学ジェンダー社会科学専攻修士論文。
- Fuchs, Tamara and Fabian SchÄfer. 2019. "Normalizing misogyny: hate speech and verbal abuse of female politicians on Japanese Twitter," *Japan Forum* DOI:10.1080/09555803.2019.1687564.
- Krook, Mona Lena. 2020. *Violence Against Women in Politics*. Oxford University Press.
- Restrepo Sanín, Juliana. 2018. "The Law and Violence against Women in Politics," *Politics & Gender* 14(4): 676-680.
- Krook, Mona Lena and Juliana Restrepo Sanín. 2016. "Gender and Political Violence in Latin America: Concepts, Debates, and Solutions." *Política y Gobierno* 023 (1): 125-157.
- Inter-Parliamentary Union. 2016. *Sexism, Harassment and Violence Against Women Parliamentarians*.
- Inter-Parliamentary Union. 2018. *Sexism, Harassment and Violence Against Women in Parliaments in Europe*.
- National Democratic Institute. 2015. *Tackling Violence Against Women in Politics: Towards A Global Consensus*.
- National Democratic Institute. 2018. *No Party To Violence: Analyzing Violence Against Women in Political Parties*.
- National Democratic Institute. 2019. *Tweets That Chill: Analyzing Online Violence Against Women in Politics*.